

(続紙 1)

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	増木優衣
論文題目	現代インドにおける清掃人カースト差別と公衆衛生 —ラージャスターン州における屎尿処理技術革新を通じた社会変革の試みに着目して—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、現代インドにおける被差別民である不可触民 (ダリト) 差別をめぐる社会変容メカニズムへの、地域の社会文化・経済・生態環境的文脈からの総合的なアプローチを試みるものである。具体的には水洗トイレの普及を通じた清掃人カーストの解放の試みに焦点をあて、公衆衛生的手段を用いた開発介入がもつ文化社会的・生態環境的影響を検討するとともに、ローカルな地域社会における清掃人カーストと上位カーストとの関係について記述し、その変化の方向性について考察している。</p> <p>第1章においてはダリト解放と清掃人カーストに関する先行研究が検討される。1960年代後半以降、おもにガンディー主義者が推進したのが、清掃人カーストを汚物への直接的な接触とそれに起因する差別から「解放する」主要な手段としての水洗トイレであった。1990年代には、清掃人カーストら自らが組織する政治経済的地位向上と労働環境改善のための運動も高揚をみた。これらの動きに関する研究には蓄積があるものの、次のような課題もある。第一に「水洗トイレ」がすでに開発された所与の技術としてとらえられてきたため、技術そのものが清掃人カースト解放という観点から開発されていく歴史的過程や、地域社会固有の生態環境に及ぼす影響が考察されてこなかった。第二に、運動を主導してきたガンディー主義者 (主に高位カーストからなる) や、清掃労働に従事していない都市部エリートが記述の中心となり、地方都市や村落部で実際に清掃業に携わる人々の観点から解放運動の展開を捉える視点は軽視されてきた。</p> <p>そこでまず第2章において、不可触民解放運動、とりわけ清掃人カースト解放運動の一環としての水洗トイレ普及運動が展開されてきた歴史的過程を、文化社会的・技術的双方の側面から明らかにするとともに、本稿が対象とするNGOスラブ・インターナショナル (以下、スラブ) を、その歴史の中に位置づけた。</p> <p>第3章では一連の水洗トイレ普及運動を通じて、実際の地域社会においてはどのようなタイプの水洗トイレ技術が導入され、それにより地域の伝統的な屎尿処理過程がいかに変化し、さらに新しいトイレの普及はどういった環境負荷につながるようになったのかについて、ラージャスターン州の地方都市T市の事例を通して明らかにした。</p> <p>第4章では、T市において水洗トイレの普及を推進していくことで乾式トイレの屎尿処理から清掃人カーストを「解放」したスラブの諸活動が描かれる。具体的には、(1) スラブの組織構造と事業形態の特徴と日常的な組織運営におけ</p>			

る問題点、(2) スラブの活動を通じて「解放」された清掃人カースト・ヴァールミーキについての組織における認識や位置づけ、(3) T市の職業訓練事業に参加したヴァールミーキの人びとの社会経済的状況の変化を検証した。

第5章では、水洗トイレが普及し、清掃人カーストの人びとが乾式トイレの屎尿処理を行わなくなった状況において、T市の地域社会における清掃人カースト・ヴァールミーキと他のカーストとの関係の変容が描かれた。ここでは特に食物授受に焦点を当てて分析が行われた。T市においてはカースト出自をあらゆる理由とした食物受け取りの拒否が憚られており、カーストの浄・不浄ではなく、清潔・不潔を理由とした接触や食物授受の制限が語られている。スラブを中心としたカースト解放と清潔化の運動によって普及した公衆衛生の観念をヴァールミーキの人々が利用しながら、日常生活の中で、他のカーストとより対等な社会関係を築こうとしている状況が描かれる。